

## 第1回多古町ゼロカーボン推進協議会 議事要旨

【日時】令和7年11月14日（金） 14時～15時20分

【場所】多古町役場3階 大会議室

【出席者】若山委員（会長）、澤田委員（副会長）、内山委員、坂尾委員、梅田委員、南雲委員※、  
前橋委員、白鳥委員、田代委員、小林委員、米山委員※、石毛委員 ※代理出席

【事務局】多古町生活環境課 3名

### 【資料】

- 次第
- 委員名簿
- 席次表
- 多古町の地球温暖化対策に係る協議会との連携について
- 多古町地球温暖化対策実行計画（区域施策編） 素案
- 多古町ゼロカーボン推進協議会設置要綱
- 「多古町ゼロカーボン推進協議会[区域施策編]（素案）」についての意見

多古町ゼロカーボン推進協議会設置要綱に基づき、若山委員を会長、澤田委員を副会長とする。

### 1. 議事1 多古町の地球温暖化対策に係る協議会との連携について

梅田委員： 他自治体においても協議会にて同様の検討を行っているのか。

事務局： そのとおりである。現在町ではゼロカーボンシティ宣言の表明を検討しているところであり、脱炭素に関する取組を推進すべく、本協議会を設置したという経緯である。

### 2. 議事2 多古町地球温暖化対策実行計画 区域施策編（素案）について

梅田委員： 直近における温室効果ガス排出量の増減割合を教えてください。

事務局： 直近の2022年度における排出量は、2013年度比で約8%減少した。

田代委員： 温室効果ガス排出量の現況推計について、算出方法を教えてください。

事務局： 千葉県における活動量あたりの温室効果ガス排出量に、多古町の活動量を乗じることで町内における温室効果ガス排出量を推計した。また、産業部門（製造業）であれば製造品出荷額等、活動量は部門・分野別に設定した。

小林委員： FIT・FIP制度による現状の太陽光発電設備の導入量は、電力需要の何割程度であるか。また、今後は自家消費形態での導入量が増えていくと考えられるが、本形態による導入量を把握しているか。

事務局： 電力需要に対する太陽光の導入量については後日回答する。また、自家消費分については実態把握が困難であり、現状の導入量を正確に把握はしていない。

田代委員： 素案に示されている5つの柱に基づく基本施策と、目標を達成するための削減量は一対一で対応しているわけではないとの認識で良いか。

事務局： その認識で良い。ただし、基本施策及び削減目標の検討は、国計画である地球温暖化

対策計画をもとに行ったものであり、両者間で一定程度の整合は取れているとの認識である。

米山委員： 施策や温室効果ガス排出量の進捗把握等、今後どのように計画の進行管理を行っていくのか。

事務局： 進行管理手法については現在検討中であり、今後詰めていきたいと考えている。

坂尾委員： 環境との共生という観点において、特に野立て太陽光発電設備の導入に対しては批判的な意見も出ているところである。多古町は自然環境が豊富であると認識しており、今後の太陽光導入時には環境配慮が必要ではないか。

石毛委員： ホテル業界では重油の消費量が多く、早くから燃料の削減に向けた取組を実施してきたところである。このように事業者は既に温室効果ガス排出量削減に向けた取組を行っており、今後は町民による取組の実施が重要となるのではないかと。町民に対して取組を促していくうえで、まずは脱炭素に関する情報発信等を行うことが良いのではないかと。

澤田委員： 情報発信の例として、町による補助事業の採択件数を公表すること等が考えられる。

澤田委員 再生可能エネルギーの導入目標について、実態に即した検討方法も考えられる。例えば、今後新築住宅で導入見込みの太陽光発電設備の導入量を積み上げる方法等が考えられる。

### 3. その他

事務局： 素案に対する追加意見があれば、11/28 までに意見書を提出すること。

以上